

新型インフルエンザ患者の治療における 人工呼吸器確保の考え方

2008年7月30日

パンデミック時に重症の新型インフルエンザ患者が多数発生した場合、人工呼吸器が不足する恐れがある。このため、フェーズ3の段階から、必要な台数について調査・検討する必要がある。本件の検討にあたっては、以下の点に留意してはどうか。

1. 必要台数の推定について

重症の新型インフルエンザ患者の入院医療を担当する医療機関において、現在、人工呼吸器が何台あり、うちどれだけの台数が新型インフルエンザ患者の治療に確保できるか、更に人的資源を鑑みて何台使用可能か等について、調査が必要である。

2. 備蓄する人工呼吸器の種類について

備蓄する人工呼吸器の種類を選定するにあたっては、誤操作を防ぐため、現在、各医療機関で使用している人工呼吸器と同じタイプが選定される等の配慮が必要である。

3. 保管場所について

実際に使用される場である新型インフルエンザ患者の入院医療を担当する医療機関において、管理・保管できるよう検討する。

4. 関連する備品の準備について

人工呼吸器を使用するにあたっては、管理を行う医療従事者が、発生するエアロゾルを吸入したり、患者と接触することによって感染するおそれがある。このため、医療従事者を防護するために十分なPPE（個人防護具）を確保することも検討する必要がある。